

教育課程研究指定校事業実施計画書（平成30年度）
— 研究課題 1 中学校 —

都道府県・指定都市番号	43	都道府県・指定都市名	熊本県
-------------	----	------------	-----

公立 ・ 私立 ・ 国立 （○で囲む）

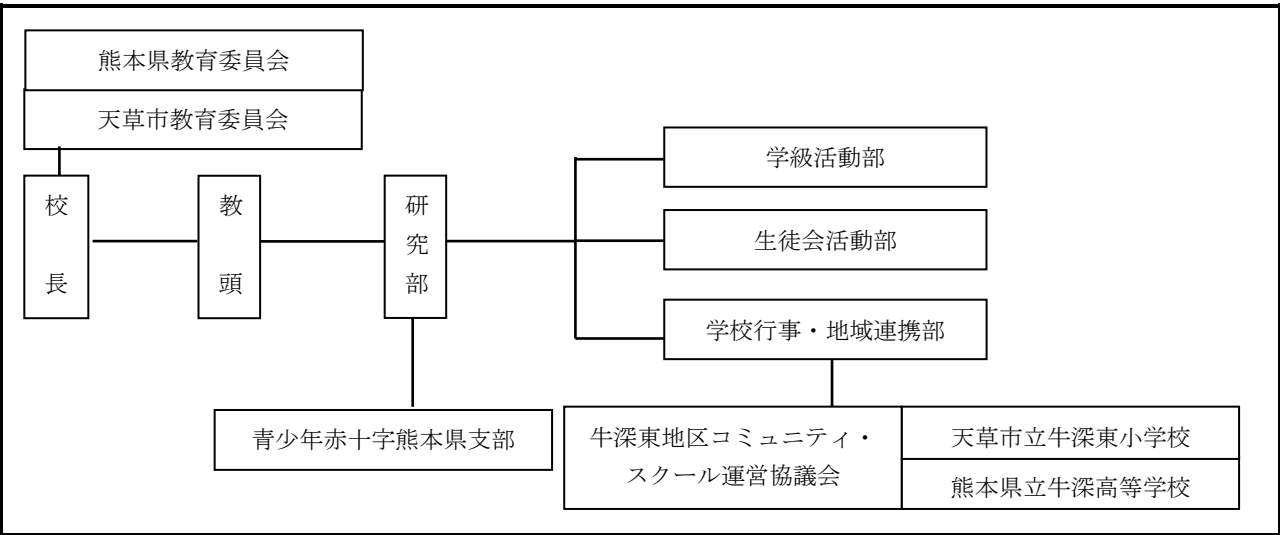
1 研究指定校の概要

ふりがな 学 校 名	あまくさしりつ うしぶかひがしちゅうがっこう 天 草 市 立 牛 深 東 中 学 校				校長氏名 ふりがな	お だ かずや 小 田 和 也
所 在 地	〒863-1902 熊本県天草市久玉町 2364 番地 電話 0969-72-3214 FAX 0969-73-4646 E-mail ushibukaeast@city-amakusa.ed.jp					
(H30.4.1 見込)	1 年	2 年	3 年	計	(H30.4.1 見込。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む) 教員数 13 名 [調査研究にかかわる教科等の教員数] 13 名	
学 級 数	2(1)	1	2(1)	5(2)		
生 徒 数	20 (1)	29	29 (2)	78 (3)		
特記事項	上記の0内は、特別支援学級の学級数・生徒数					

2 研究主題等

教科等名	特別活動	教科課題番号等	①, ③
学校における研究主題	個が育つ自治的な集団づくり ～「気づき・考え・実行する」態度を根底とした特別活動の工夫～		
研究主題設定の理由	本校は、熊本県天草下島南端に位置し、生徒数 78 名、学級数 5 の小規模のへき地校である。そのため、生徒たちは保育園、小学校からの固定化された人間関係の中で、へき地であるがゆえの社会体験の不足、自治的な能力や自己を生かす能力が低いという課題を抱えている。よって、主に、人間関係形成能力の向上、自主的な課題発見・解決能力及び社会参画意識の向上、自己有用感、自分の将来への希望や学習意欲を持たせることを目的とする。		
研究の内容	本校生徒及び地域の実態に応じて、次のような内容に取り組む。 (1) 学級活動における話し合い活動の充実 (2) 生徒会活動における自主的、実践的なボランティア活動等の推進 (3) 学校行事における地域、関係機関との連携・協働の推進 (4) 特別活動と各教科を接続する話し合い活動の構造化(カリキュラム・マネジメント) (5) 教科等横断での問題解決能力の育成(ファシリテーション)		

3 研究体制等



4 研究計画

	実施時期	研究内容, 研究方法, 成果の公開等	期待される成果等
平成30年度	前半	【キーワード】共通理解, スキルアップ, 班, 学級 ○研究のゴール, プロセスの設定・確認 ○研究組織づくり ○青少年赤十字の活動や話し合い活動及びファシリテーションの指導に関する職員研修 ○学級活動における話し合い活動の充実 ○縦割り班による活動の推進 ○各活動における「気づき・考え・実行する」視点の指導	○研究の方向性, 内容についての全職員の共通理解 ○青少年赤十字の活動や話し合い活動及びファシリテーションの指導についての全職員のスキルアップ ○人間関係形成能力の向上と支持的風土の涵養 ○「気づき・考え・実行する」視点の定着
	後半	【キーワード】学級, 生徒会, 学校行事 ○学級活動における自治的な能力の育成 ○生徒会活動における自主的, 実践的なボランティア活動の推進 ○学校行事への協力 ○縦割り班による活動 ○研究の成果と課題の整理（中間報告書作成） ○次年度の研究計画作成	○話し合い活動及びファシリテーションによる合意形成, 意思決定の定着 ○自主的な課題発見・解決能力の向上
平成31年度	前半	【キーワード】共通理解, スキルアップ, 班, 学級, 生徒会, 学校行事, 教科学習 ○研究のゴール, プロセスの設定・確認 ○研究組織づくり ○青少年赤十字の活動や話し合い活動及びファシリテーションの指導に関する職員研修 ○学級活動における自治的な能力の育成 ○生徒会活動における自発的, 自治的な生活改善の推進 ○学校行事への協力 ○話し合い活動及びファシリテーションを通じた問題解決能力の育成 ○話し合い活動とファシリテーションの教科等横断での活用	○異動等に伴う研究の方向性, 内容についての全職員の再度の共通理解 ○青少年赤十字の活動や話し合い活動及びファシリテーションの指導についての全職員のスキルアップ ○人間関係形成能力の向上と支持的風土の涵養 ○自主的な課題発見・解決能力及び社会参画意識の向上
	後半	【キーワード】生徒会, 学校行事, 地域・関係機関, カリキュラム・マネジメント ○生徒会活動における自主的, 実践的なボランティア活動の推進 ○学校行事における地域や関係機関との連携・協働の充実 ○「気づき, 考え, 実行する」問題解決の学習過程の視点に立ったカリキュラム・マネジメントの試行 ○研究発表会 ○研究の総括と今後の展望（研究報告書の作成）	○正しい自己理解に基づいた個性の伸長 ○自己有用感, 自分の将来への希望や学習意欲を持たせる ○自己実現のために自分を伸ばす能力の向上

5 研究のまとめの見通し

本研究を通して, 生徒の自己有用感や, 自治的な能力の高まりを期待する。その検証方法として, 全国学力・学習状況調査における生徒質問紙調査, 熊本県学力調査における質問紙調査, Q-U アンケート等において, 本研究の目的と関連する項目の結果を検証する。また, 研究の途上で各学力調査等における各教科の学力の成果で本研究と関連の見られるものがあれば検証する。